

トルコ為替週報

2022年2月15日 | みずほ銀行欧州資金部

＜過去1週間の動き＞

(2月8日～2月14日)

USD/TRY: 13.4500～13.6605

TRY/JPY: 8.45～8.62 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、じり高推移一巡後、週明け14日に下押し。リラのじり高先行に、並行したトルコ長期金利の低下(国債価格は上昇)が貢献した可能性は考えられた。手元のデータ(ブルームバーグ)によると、トルコ10年国債利回りは、1月末の22.48%を局面の天井に、10日までに20.79%まで、ほぼ一本調子で低下した。しかし、同長期金利低下(国債価格上昇)の要因は定かではなかった。ネバティ財務相は、9日、新たに「ベッドマットの下の金(日本で言うところの『タンス預金』)を引き出すスキーム」導入を予告し、12日、実際に発表した。その詳細は未だ不明なものの、10年前に導入された同スキームとの違いは、その受付窓口を、金融機関に限定せず、宝飾品業者も加える点にある模様。同財務相は、同スキームにより金500トン、250-300億ドル相当を、退職資産から、実態経済に流通させることを目指すという。仮に目論見通りに市場に流通するのなら、経済活性化や総外貨準備の増加に寄与する可能性も考えられるかもしれない(後述)。ただ、この発表と、局面のトルコ国債堅調との因果関係は不明だった。米1月CPIの上振れ(10日)に前後して、主要国の長期金利は逆に上振れていたため、ますます、トルコ長期金利だけが低下していたのは謎と言えた。週明け14日のトルコ長期金利上昇、リラ安は、①前週末(11日)の市場引け後、一部大手格付け会社が、トルコ国債の格付けを引き下げたこと(注1)、及び②ウクライナ東部/ロシアの軍事的緊張感の高まり(注2)=リスク回避の新興市場通貨売りが材料視された。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/10	7:00	失業率	12月	11.2%	-	11.3%r
2/11	7:00	経常収支(USD)	12月	-3.84bn	-4.20bn	-2.82bnr
	7:00	鉱工業生産(前年比)	12月	+14.4%	+10.9%	+11.3%r
	7:00	小売売上高(前年比)	12月	+15.5%	-	+17.0%
	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	2月	+24.83%	-	+25.37%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(2月15日～2月21日)

USD/TRY: 13.500～13.700

TRY/JPY: 13.40～13.60

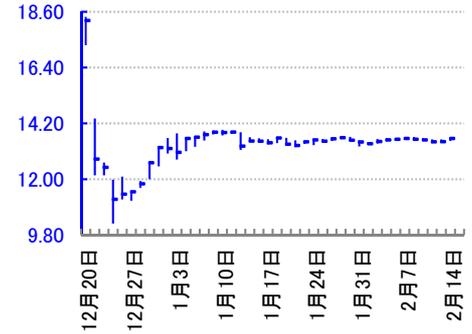
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、方向感に乏しい膠着を予想。値幅が出るとしたら、引き続き底割れ(リラ安方向)を警戒する。昨年11月半ば～今年1月半ばの乱高下と比較すると、足元リラの値動きはまるで止まっているかのようにも見える。1月半ば以降は、対ドルで13.30～13.65、対円で8.40～8.65を中心とした、極めて狭い値幅での小動きにとどまっている。トルコ当局の努力(為替差損補填リテラ預金の奨励や同預金収入などに対する税免除、各種物価抑制策、トルコ中銀と韓国/UAE中銀とのスワップ協定締結など)が奏功していると考えたいところだが、最も大きな要因は、世界の金融資産市場からトルコ資産が切り離されたことであろう。資金流入がなければ、資金流出も起きないのは当然。ただ、投資/投機の「緩衝材」がなくなった市場では、その経常収支動向の影響力が圧倒的に大きくなるのは不可避で、リラ底割れを警戒するのは経常赤字基調の定着を見込むことでもある。ネバティ財務相は、11日、「トルコ債券の実質利回りが低いのは、市場が物価下落を見込んでいるからだ」と述べた。エルドアン大統領が「金利が上がれば(資金調達コストの上昇により)物価が上昇する」と主張するのと同様に、なるほど、確かに一理あるようにも思われる。ただ、足元物価が前年比+50%前後を推移しているのは事実で、同財務相が8日述べたように、仮にリラが現行水準に定着したとしても、リラ安(注3)のベース効果が払拭されるには、来年11月以降まで待たなければならない。リラ安を貿易/経常収支改善の切り札にしながら、物価安定を図ると同国の「新経済モデル」は、少なくとも当面着地点を見いだせないように思われる。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/15	8:00	財政収支(TRY)	1月	-	-	-145.7bn
2/17	11:00	1週間物レボ金利	-	-	14.00%	14.00%
2/21	8:00	外国人観光客(前年比)	1月	-	-	+170.6%

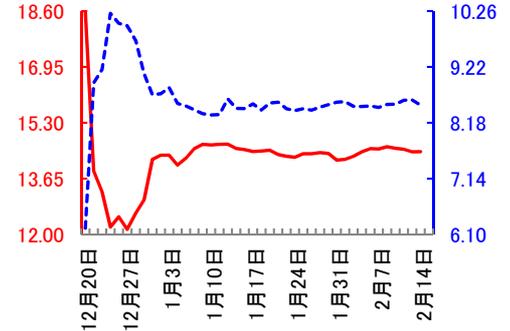
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



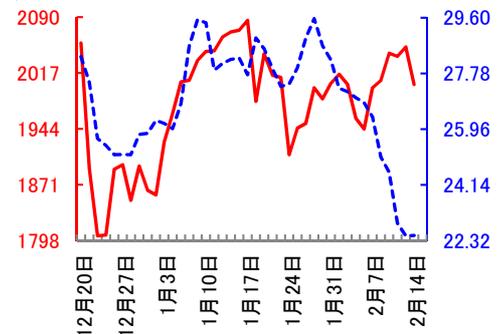
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン 17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年スワップ金利)



(資料:トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+7.4%
失業率	12月	11.2%
消費者物価(前年比)	1月	+48.69%
鉱工業生産(前年比)	12月	+14.4%
小売売上高(前年比)	12月	+15.5%
貿易収支(USD)	12月	-6.79bn
経常収支(USD)	12月	-3.84bn

(注1) BB-からB+に引き下げ、見通しは「格下げ方向」を維持

(注2) 米大統領補佐官が、11日、「北京オリンピック開催中でもロシア軍事侵攻はあり得る」「ウクライナに滞在する全米国人に退去を勧告した」などと発表した

(注3) 輸入物価押し上げ要因

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。